指導案　思いついたことを口にしてみよう

■基礎データ

|  |  |
| --- | --- |
| 大目標 | ＊＊＊PART2　発散技法を学ぶ＊＊＊ |
| ステップ・タイトル | ステップ4 >>> 思いついたことを口にしてみよう（第4回） |
| ねらい（学習目標） | ①発散技法とは何かを知る②自由連想・関連法の方法を知る③関係のない単語同士からアイディアを生み出すことのおもしろさと難しさを知る |
| 使用する技術 | 自由連想・関連法 |
| 受講者に与えるテーマ（例） | 「21世紀驚きの家電」「ありそうでなかった新しいアプリ」「さすがにドン引きUSJの新アトラクション」 |
| 進行 | ①導入・グループ分け・説明→②グループワーク→③全体発表（各班２分・全体で20分程度）→④まとめ |
| グループ内の役割分担 | トランプの１の人を全体発表の発表者（プレゼンター）として指名する |
| 用意する物品 | キッチンタイマー（全体時間管理）、A4コピー用紙（各人2 枚：自己紹介用、グループワーク時のメモ用）、ワークシート（自由連想・関連法）（A3に拡大コピーして使用すると使いやすい）（人数分）、水性ペン（黒・人数分（各人の筆記用具でもよい））、トランプ（グループ分けに必要な場合） |
| 備考1 | 大学初年次教育などで「グループの中で発言すること・他人の意見を聞くこと」を中心に学習したい場合には、様々なアイスブレイク手法（STEP01参照）を毎回実践してもよい |

■学習の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成 | 学習活動の内容 | 指導上の留意点 |
| 1.導入 （15分） | ⑴導入（15分） | それでは、みなさん、挨拶しましょう。おはようございます／こんにちは。※受講者にも発声させる |
| 前回までのふりかえり （実施した場合）グループ分け | 前回までは「ウォーミングアップ」として自己紹介や他己紹介など「アイスブレイク」を中心に活動してもらいました。みなさん、こころとからだの緊張は取れて、温まってきたでしょうか。それではグループ分けをしましょう。グループに分かれる時には、荷物を持って移動してください。※グループの分け方は「STEP01 学習の流れ ①導入 グループ分け」参照 |
| アイスブレイク | グループに分かれましたか。まずはアイスブレイクをしましょう。A4の紙を使って自己紹介をしてください。各班、A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってください。※ A4 の紙を使った自己紹介は、「STEP01 学習の流れ ④展開 3」参照※アイスブレイクの説明が必要な場合は、「STEP01 学習の流れ ⑤まとめ」参照（10分程度のアイスブレイク後）おつかれさまでした。まだ終わっていないグループも、終了してください。みなさん拍手をお願いします。 |
| 2. 展開１（5分） | ⑵発散技法について説明する（5分） | 今回は「実際にアイディアを出し、新しいものを作り上げていく」というグループワークをします。「発散技法」という「とにかくアイディアをたくさん出す」方法です。 |
| 問題とその解決のためには | 発散技法とは問題解決技法の１つです。私たちは、生きていく中で、様々な問題にぶつかります。期待どおりに現実はなかなかうまくいきません。経営コンサルタントの高橋誠さんは「問題とは『期待と現実の差』であり、問題を解決するためには、いくつかの技法がある」と言っています。また「それぞれの技法は決まったステップに則っていて、そのステップを踏んでいくことで、効果的に問題解決の糸口にたどりつくことができる」としています。 |
| 問題解決技法の４種類 | 問題解決の技法は、大きく分けて4つあります。1つ目は「発散技法」、2つ目は「収束技法」、3つ目は「統合技法」4つ目は「態度技法」です。このうち、3つ目の統合技法は、1つ目の発散技法と2つ目の収束技法の2つを含んだ技法で、4つ目の態度技法は、問題解決の手順というよりは、問題解決の心構えを作る技法です。ですので、1つ目の発散技法と、2つ目の収束技法の意味を理解することが重要です。 |
| 発散技法と収束技法 | 発散技法とは、アイディアを出すための技法で、収束技法とは、発散技法で出したアイディアをまとめあげる技法です。難しい話はこれくらいにして、今日は「発散技法」について、学んでいきます。なお、このような技法をまとめている本がたくさんあります。興味のある人は紹介しますので、個別に聞きにきてください。※以下の4 冊などがおすすめです①高橋誠（1984）『問題解決手法の知識〈第２版〉』日経文庫34122 の問題解決技法について論理的に解説。14個の発散技法（ブレインストーミング、欠点列挙法など）、8個の収束技法（KJ法、特性要因図など）について解説②伊東直哉（2004）『MBA式戦略発想トレーニング』PHP 研究所MBA プログラムで履修する手法を紹介。問題点発見と課題設定の思考法、問題点の探索、問題点の現状分析、アイディアの創出・検討、アイディアの評価とシナリオ作成の５段階の技法を紹介③堀公俊（2013）『ビジネス・フレームワーク』日経文庫1927技法・思考のフレームワークが書かれているレシピ集。戦略立案、マーケティング、問題解決、マネジメント、組織開発の５つをまとめている④株式会社アンド（2018）『ビジネスフレームワーク図鑑』翔泳社70の技法・思考のフレームワークを紹介。問題・課題発見、市場分析、課題解決、戦略立案、業務改善、組織マネジメント、他者伝達・共有の全７章。 |
| 3. 展開２（7分） | ⑶自由連想・関連法　　　　　　（7 分）ワークシートの説明 | 今日は「自由連想・関連法」という、アイディアを出す練習をしましょう。まずワークシートに班と名前を書いてください。テーマは「21世紀の驚きの家電」です。みなさんで21世紀にふさわしい驚きの家電を話し合って、最後に各班２分で発表をしてください。驚きの家電ですので、現実的にありえない家電など、突拍子もないものでもよいので、アイディアをたくさん出し、21世紀の驚きの家電を発想してください。※テーマは何でもよいが、家電、文房具などの製品や、イベントなどのサービス関連のものがよい※各班の発表時間は、状況に応じて変える。今回は、各班3 分× 6 班＋バッファ（調整できる予備の時間）2分の、全体で20 分を想定 |
| グループワークの説明①キーワードA②キーワードB | ワークシートには、①から④まで番号がついています。この順番でグループワークを進めていきます。まずは①です。「キーワードA」と書いてあります。自由連想・関連法はアイディアをどんどん出していくことがポイントです。班の中の誰でもよいので単語を１つ挙げてください。名詞でも形容詞でも、今日のテーマである「21 世紀」「驚き」「家電」に関連がなくてもかまいません。たとえば、「ほうれん草」とか「眠い」とか「黄色」とか、とにかく単語を１つ言いましょう。ただし公序良俗に反する言葉はやめてください。みなさんはその言葉を、「①キーワードＡ」という文字の下の「テーマに関係なくてOK ！」と書いてある四角の中に書いてください。最初に単語を言ってくれた人が１番目です。そこから時計回りで自由連想がスタートです。「マジカルバナナ」という連想ゲームをやったことがある人は同じ要領です。最初にあげたキーワードが「ほうれん草」ならば、２番目の人は「ほうれん草」から連想する言葉を挙げてください。たとえば「野菜」などです。そして３番目の人が「野菜」から連想する言葉を挙げます。たとえば、「嫌い」です。さらに４番目の人が「嫌い」から連想する言葉を挙げます。たとえば「抜き打ちテスト」です。このように直前の言葉から連想されるものを挙げ、それらの言葉を、「自由連想スタート・直前の言葉から連想しよう！」という文字が書かれている大きな四角の枠にどんどん書いていきます。20 個くらいまで連想を続けていき、枠の中がある程度埋まると終了です。ここではテーマである「21 世紀の驚きの家電」のことはまったく気にしなくて大丈夫です。※わかりづらい場合は、本章最後の実施例を参照させる次にワークシートの②の部分に移ります。今紹介した①と同様の手順で進めてください。誰かがまず何でもよいので単語を言って、そこから時計回りで自由連想をスタートさせ、直前の言葉から連想する言葉を挙げていき、四角の枠内が埋まると終了です。もちろんテーマである「21 世紀の驚きの家電」は気にしなくてかまいません。※ここまで時間を区切ってやってから次の③に進んでもよい。時間はおおよそ15 分を想定する |
| ③関連アイディア | ③に進みます。ここもグループワークです。関連アイディアといって、ワークシートに書いてあるように、AとB の言葉をくっつけてアイディアを生み出します。何でもよいので、A、Bからそれぞれ１つ言葉を選んでください。その2つを強引に組み合わせて新しい言葉を作りましょう。そしてその言葉がどういう意味か、こじつけでよいので説明してみたり、組み合わせた言葉からイメージを膨らませたりして、その結果を③の四角の中に書いてください。ここでもテーマである「21世紀の驚きの家電」のことは気にしなくてかまいません。③には、四角が全部で7個ありますので、「AとBの言葉をくっつける」作業を７回行ってください。１人がずっとやるのではなく、すべてのメンバーができるようにしてください。これで７つ分のアイディアができます。※わかりづらい場合は、本章最後の実施例を参照させる※ここまで時間を区切ってやってから次の④に進んでもよい。時間はおおよそ15 分を想定する |
| ④完成アイディア | いよいよ最後は④です。④は完成アイディアです。テーマである「21 世紀の驚きの家電」について、③の７つのアイディアすべて、もしくはいくつかを使いながら、またはそれらのアイディアをさらなる連想の出発点にしながら、驚きの家電を提案してください。タイトルは、最後に考えましょう。まずは内容です。どんな家電なのか、どんな驚きの内容なのか、何が21 世紀なのかについて四角の中に説明してください。なるべく関連アイディアとの関係性が明らかになるように書いてください。そしてタイトルです。家電の名前だけでもよいですが、「〇〇ができる家電」と名づけたり、商品名などをつけても素敵です。※ここまで時間を区切ってやってから発表に進んでもよい。時間はおおよそ10 分を想定する |
| ⑤発表 | 最後は発表です。発表時間は〇時〇分から各班〇分で発表してください。プレゼンター役の人が発表してください。各班のトランプの１の人がプレゼンターです。よろしくお願いします。発表は④を中心として、①②についてはごく簡単に、③についてもいくつかのアイディアを紹介するようにして時間内に収めてください。※発表は、残り時間や班の数によって変えてよいが、１分（④中心）もしくは２分程度とした方がよい※余裕があれば質疑応答の時間を入れる |
| 4. 展開3（40分） | ⑷グループワーク　（40分）はじめの合図グループワーク開始 | よろしいでしょうか。わからないところがあったら、私が各班をまわりますので、その時に聞いてください。それでは始めてください。※キッチンタイマーなどで時間を計る（終了時に音が出るものなどがよい）※基本的には40分程度を作業時間とする。時間管理は講師側が全体ファシリテーターとして行う。「発表開始まで30分前」、「15分前」、「10分前」、「5分前」など全体に周知する |
| 5. 展開４（20分） | ⑸全体発表（20分） | おつかれさまでした、みなさん拍手をお願いします。それでは発表に移ります。１班のプレゼンターから順番に発表してもらいます。今日の発表は前には出ず、プレゼンターはその場に立ってみなさんの方を向いて発表してください。キッチンタイマーを2分間にセットしていますので、プレゼンターはスタートボタンを押して発表を始めてください。※前に出て発表をさせてもよい。その場合にはプレゼンターだけではなく、班のメンバー全員を前に出して「班としての発表」を演出する方がよい※グループワーク中に、各班をまわってプレゼンターにトランプを引かせて発表順を決めてもよいまずは１班のプレゼンターさん、よろしくお願いします。 |
| 発表終了 | ありがとうございました。みなさん拍手をお願いします。次は２班のプレゼンターさん、よろしくお願いします。※最後のプレゼンターまで発表する※時間に余裕があれば質疑応答を行ってもよい |
| 6. まとめ（3分） | ⑹まとめ（3分） | これで全部の班の発表が終わりました。みなさん、もう一度拍手をお願いします。（拍手）ありがとうございました。 |
| ふりかえり | 今日は発散技法・収束技法の２つの問題解決技法の中で、発散技法の１つである「自由連想・関連法」を学びました。※数人から感想を尋ねてもよい |
| 自由連想・関連法の使用法 | このように自由連想・関連法を使うと、思いもつかなかったようなアイディアが生まれてきたかと思います。これは実際に企業において「新しい何か」を作り出すような商品開発の現場や、既存の枠にとらわれない「新しい考え方」を生み出す時にも使われています。「こうでなくてはいけない」という考え方を一回取り払って自由気ままに連想していくことで、既存の概念を打ち破るような新しい何かを生み出すことができます。 |
| 新しいアイディアを生み出す（時間があれば） | 小説家の星新一さんは、ショートショートという数ページから数十ページの短くて不思議な物語を1000話以上書かれました。そのうちのいくつかは『世にも奇妙な物語』の原作にもなっています。星新一さんがアイディアを出す時には、こんなことを言っています「そもそも、アイデア捻出の原則はひとつしかない。異質なものを結びつけよ、である。常識の殻を破りたいとは、だれでも考えていることだ。しかし、この殻は非常に強固なもので、いかに待っても自然には割れてくれない。異質なものとの結びつきによってのみ可能なようである」（星，1982）。このような作業をずっと頭の中で繰り返していたそうです。今日はここでおしまいにしたいと思います。おつかれさまでした。 |

■評価ポイント

1．発散技法とは何かを知る

2．自由連想・関連法の方法を知る

3．関係ない単語同士からアイディアを生み出すことのおもしろさと難しさを知る

■特記事項

・本指導案中に挙げた参考資料をもとに、別の発散技法を実施してもよい

複製・加工等ご自由にどうぞ